

## 主要科目の目標、特長

(保健医療科学研究科 保健医療科学専攻／健康増進・リハビリテーション分野)

授業科目の名称	目 標	特 長
バイオメカニクス学特論	本講義においては研究と論文作成の基礎を学び、バイオメカニクス基礎的知識を獲得することを目的とする。	バイオメカニクスの基本を学び、また病態運動学、および運動力学についての基本を学ぶ。また同時に研究を行うために必要な、文献検索、信号処理、英文雑誌の投稿規定を抄読しながらその基礎を学ぶ。
バイオメカニクス学演習	生体の機能や構造を力学的に解析したり、その結果を応用したりする分野において、本講義においては、様々な機器を用いて運動を客観的に評価することができ、動作のメカニズムをバイオメカニクスの側面から説明できるようになることを目的とする。	バイオメカニクス学特論を基礎として、動作解析装置における基礎を学ぶ。また機器から算出されるさまざまな変数についての意味を考え、実際に計測を行う。
障害評価・解析学特論	理学療法に関連する障害の評価方法や基本的な解析方法について理解を深めることを目標とする。	神経筋系の基礎的な理解をもとに、主に神経系の疾患によって起こる機能障害の評価法について扱います。解析方法として、筋電図、重心動揺計、加速度計などの扱い方及び時系列データの解析方法について学修する。
スポーツ理学療法学演習	集中演習をオムニバス形式で行う。上肢スポーツ傷害について、下肢スポーツ傷害について、ストレングスとコンディショニングについてそれぞれを3名の兼任講師が演習する。上肢スポーツ傷害では野球など投球動作を主体として肩肘の傷害について、また下肢スポーツ傷害では、股関節、膝関節、足関節傷害についてリハビリテーションとコンディショニングの実践を行う。またストレングスとコンディショニングではストレングス理論とコンディショニングの関係について演習を通じて教授する。	3名の外部講師による実践的講義によりスポーツ理学療法に関する臨床的評価や臨床的治療方法について学ぶものである。
作業科学特論	作業の複雑さと作業的存在の視点を理解する。	自らの作業の分析，研究論文を用いたディスカッションを通して作業的存在，作業と健康，作業と発達，作業と参加等を学修する。

<p>発達障害作業量法学演習</p>	<p>摂食嚥下リハビリテーションについて、臨床場面で求められる臨床評価、目標の設定、治療的アプローチ、環境調整など、摂食嚥下リハビリテーションを進める上で必要な知識と技能を学ぶ。</p>	<p>日本作業療法士協会の専門作業療法士養成研修との単位互換制度を持っている科目である。</p>
<p>機能形態・薬物治療学特論</p>	<p>ヒトの身体がもつ生理機能を理解する上で構造との関連性、ホメオスタシスの破綻による病態、治療メカニズムを理解する。薬の作用点、副作用について理解を深め、臨床応用される意義を理解する。</p>	<p>身体の構造、生理機能を理解し、疾患における病態メカニズムや薬物治療・副作用について講義する。最近の薬物治療に関する知見や末梢・中枢神経系の機能、循環器、消化器、泌尿器、病態生理について基礎から臨床応用に至る内容を学修する。</p>
<p>(保健医療科学研究科 保健医療科学専攻／検査情報解析分野)</p>		
<p>病因病態情報解析学特論</p>	<p>健常と疾病について考える上で、ヒト臓器・組織の正常構造をまず理解し、病理学的見地からの基本として必要な研究技法を身につける。</p>	<p>疾病の成り立ち・病態、病理学的形態像を追求し、理解し、病因・病態の解明や診断に寄与する最近の分子生物学的知見やそれらを用いた分子病理学を含む病理診断学的検査法の理論や技術を系統的に学修する。</p>
<p>化学検査情報解析学特論</p>	<p>生体内のさまざまな代謝を理解し、疾病時の検査値の変動の有無、変動の背景などを説明することができると共に、適切な情報源へアクセスできることを目標とする。</p>	<p>受講した大学院学生にとって、将来にわたって最新の情報へアクセスするためのスキルが身につくテーマを題材としている。</p>
<p>臨床検査管理情報解析学特論</p>	<p>大学病院とその検査室の役割、現状、課題について理解する。臨床検査室に特化した国際規格IS015189の概要を理解する。腎臓の構造と機能および尿検査を理解し、検査結果から病態を読み解く力を身に付ける。</p>	<p>大学病院の組織・運営と、検査室の採血、検体処理、測定、およびパニック値の報告などの業務について講義する。臨床検査室の国際規格IS015189:2012の規格の要求事項を説明する。尿検査の考え方について、腎臓の構造と機能、検査と病態、症例について学修する。</p>